

**[成果情報名] シャンパン実生を台木としたビワ「なつたより」の幼木時の収量特性**

**[要約]** ビワ「なつたより」ではシャンパン実生を台木とする事で、幼木時の樹容積が通常の実生台木（共台木）よりも早期に増加するため、早期の収量確保が可能となる。また、シャンパン台木の果実品質は共台木と同等であるが、2 L以上の大果割合は共台木より多い。

**[キーワード]** ビワ、なつたより、シャンパン、台木

**[担当]** 農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ落葉果樹研究室

**[連絡先]** 電話（代表）0957-55-8740

**[区分]** 果樹

**[分類]** 指導

---

**[背景・ねらい]**

シャンパン実生をビワの台木とすることで、接ぎ木部分からのがんしゅ病への罹病を回避出来る事を当農林技術開発センターの成果で示しているが、シャンパンは樹勢が強勢であることから、台木として利用した場合、果実品質への影響が懸念されるため平成21年に新規登録された「なつたより」について、シャンパン実生を台木に利用した際の果実や樹体の特性について通常の実生台木（共台木）とで比較する。

**[成果の内容・特徴]**

1. シャンパン台木のほうが枝数、樹容積および1樹当たりの収量が共台木に比べ多く、収穫果実の2 L以上の割合は共台木で77%程度なのに対し、シャンパン台木では85%程度と多い（表1、図1）。
2. 果実品質は、糖度、酸含量、ともに同程度で、果皮障害の発生率も同様であり、台木の違いによる有意な差は認められない（表2）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 1年生苗木を慣行方法で植え付け、調査した結果である。
2. 植え付け間隔は2mで行い、植え付け4年目に間伐を実施している。

[具体的データ]

表 1 台木の違いによる樹体構成要素および収量の比較(2009年)

処理区	枝数 (本)	袋数 (袋)	着房率 (%)	樹容積 (m <sup>3</sup> )	単位樹容積当たり		1樹当たり 収量 (kg)
					袋数	枝数	
シャンパン台	132.9	38.4	28.9	6.3	6.1	22.6	6.49
共 台	103.7	23.7	22.8	4.0	5.9	26.2	3.81
有意差 <sup>z</sup>	*	—	—	*	—	n. s.	*

z : t検定による。\*は5%レベルで有意差有り。n. s. は有意差無し。—は検定未実施。

表 2 台木の違いと果実品質および果皮障害の発生率(2009年)

処理区	1果重 (g)	糖度 (brix)	酸含量 (g/100ml)	果皮障害発生率 <sup>y</sup> (%)		
				紫斑症	へそ青	へそ黒
シャンパン台	68.1	13.7	0.23	45.6	49.4	48.1
共 台	68.9	13.6	0.23	43.7	35.2	39.4
有意差 <sup>z</sup>	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

z : t検定による。\*は5%レベルで有意差有り。n. s. は有意差無し。

y : 果袋は露地ビワ用クラフト一重袋を使用。

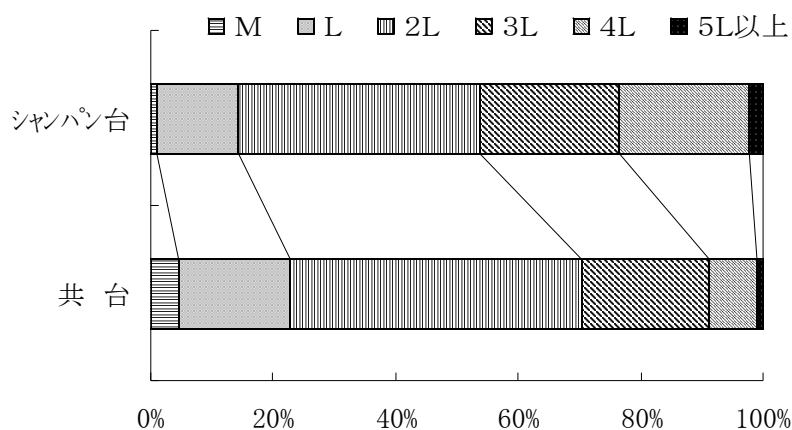


図 1 「なつたより」幼木での台木の違いと収穫果実の階級構成割合(2009年)

[その他]

研究課題名：ビワ新品種による超多収・良食味果実生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2006～2010年度

研究担当者：松浦 正、中里一郎、中山久之、徳嶋知則